

はまとびうお伊豆諸島周辺海域



評価対象種：ハマトビウオ（伊豆諸島海域）

令和8年4月

資源の水準と動向「低位・減少」

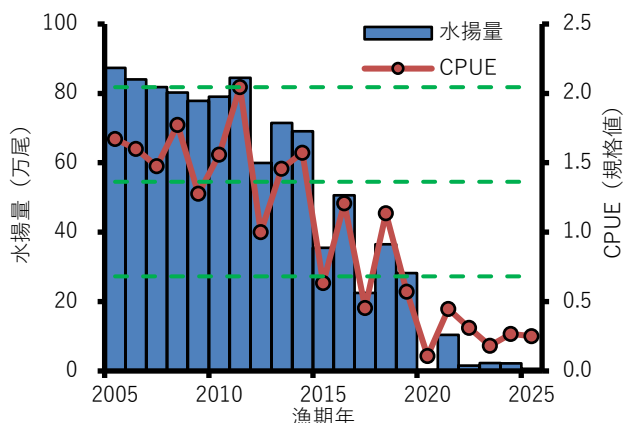


図1 水揚量とCPUEの推移

2005年以降の伊豆諸島海域におけるハマトビウオの水揚量は、2011年までは80万尾程度で推移したが、その後は減少傾向を示し、2020年には約2,000尾まで激減した(図1)。CPUEは、とびうお流し刺し網の操業1夜1隻あたりの水揚量を標準化し、平均値を1とする相対値(規格値)とした。CPUEは2011年の最大値2.045以降減少傾向を示し、直近5年間は0.181~0.446で推移した(図1)。

本資源評価票での資源量指標値はCPUEとした。2025年における資源の水準は、CPUEが最大値となった2011年の2.045の1/3未満である0.252のため「低位」とした(図1)。

資源の動向は、直近5年間のCPUEから算出した年変動率が-14.82%であり、年間5%以上の減少が見られたため「減少」とした(図2)。

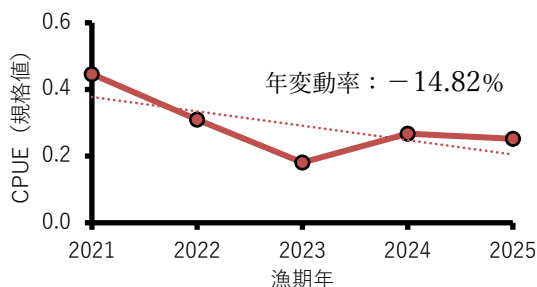


図2 流し刺し網CPUEの年変動率

生態学的特性

- 分布・回遊：東京都においては、主に八丈島周辺海域に来遊後、三陸沖へ回遊する¹⁾。
- 年齢・成長：鱗による分析および標識放流の結果によると、寿命は2~3歳と推定される²⁾。
- 成熟・産卵：産卵期は3~5月を中心に、主産卵場は沿岸付近と推定される²⁾。
- 被捕食関係：端脚類やゾエア幼生等の甲殻類、浮遊性の貝類等を捕食する³⁾。また、大型魚類やイルカ類、海鳥等に捕食される。

東京都におけるハマトビウオ漁

- 漁業：東京都漁業調整規則に基づく許可漁業である「とびうお流し刺し網漁業」及び東京海区漁業調整委員会指示に基づく承認漁業である「火光利用とびうお漁業」が営まれている。3~5月頃の夕方から明け方にかけて操業する「八丈島周辺海域における流し刺し網漁」による水揚げが多い。
- 漁法：流し刺し網、たもすくい等により漁獲される。
- 管理：1990年代前半に本種の漁獲量が急激に減少したことから、2001年より都独自に資源評価を行い、「都TAC」を設定し、資源管理に取り組んできた。令和8年度より伊豆諸島海域において資源管理協定による自主的資源管理(禁漁期間の設定等)を開始した。また、とびうお流し刺し網漁業については知事許可漁業の制限措置の中で資源状況に応じた操業隻数の上限を定めている。

- 1) 橋本 浩・米沢純爾. 2007. ハマトビウオの分布と回遊経路について. 第 55 回サンマ等小型浮魚資源研究会議報告 : 235-236.
- 2) [東京都水産試験場. 1991. ハマトビウオ資源動向調査中間報告書. 東京都水産試験場調査研究要報, \(202\): 5-17.](#)
- 3) [東京都水産試験場. 1984. ハマトビウオ漁具漁法改良試験報告書. 東京都水産試験場調査研究要報, \(185\): 37-39.](#)